

Title	遠隔教育研究センター業務報告
Author(s)	但馬, 陽一
Citation	国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学技術サービス部業務報告集 : 平成20年度: 88-90
Issue Date	2009-11
Type	Presentation
Text version	publ isher
URL	http://hdl.handle.net/10119/9999
Rights	
Description	

業務報告

技術サービス部
遠隔教育研究センター担当
技術職員 但馬陽一

遠隔教育 の体系

様々な教育の方法

相互コミュニケーションタイプ (同期型)

- ・ テレビ会議システム
- ・ PCを利用したコミュニティ
- ・ Space Collaboration System
(衛星通信大学間ネットワーク ※H20年度廃止)

学習支援タイプ (非同期型)

- ・ Web Based Training
- ・ Video On Demand
- ・ DVD, Video, CDなどのメディア媒体のもの

現在、情報科学研究科の全講義を収録・Web配信している
“情報アーカイブ”と言っているシステムまでに至る歴史と苦労点
を業務報告としてまとめた。

情報アーカイブに至るまで

平成15年度

手
作
業

・4式の収録セット(ビデオカメラ、ワイヤレスマイク、自動コンテンツ作成用PC)にて限られた講義をマンパワーで収録

・Learning Management System (LMS)の導入とTA雇用によりビデオカメラのみの映像に簡略することで情報の全講義を収録

自
動
化

・自動収録配信システムを本格導入。
ビデオカメラの映像に加え、講師のPC画面も収録。

平成21年度

・HD画質収録システムを導入

情報アーカイブに至るまでの 各収録方法における業務と苦労点(1/2)

平成15年度

手
作
業

・4式の収録セット(ビデオカメラ、ワイヤレスマイク、自動コンテンツ作成用PC)にて限られた講義をマンパワーで収録

・Learning Management System (LMS)の導入とTA雇用によりビデオカメラのみの映像に簡略することで情報の全講義を収録■・■・■

○先生への協力のお願いと作業内容の説明

協力いただき撮影にこぎ着けるまでがたいへん

○必要に応じTAの雇用手続き 個人情報の問題

○収録設備の設置と準備(各講義コマ前)

機器の調整にミスが多かった

○カメラ操作 スキル問題

○仮作成したコンテンツの手直し(要:3日以上)

膨大な時間を要した

○メディア媒体の作成

○先生確認後の手直し



クオリティの高いコンテンツが出来たが
繰り返し 完成するまでに時間が掛かる

○収録機材の管理 紛失の問題

○都度の撮影手順説明と各講義コマ前にチェック 毎回のコマに立会い

○録画テープを回収しエンコード作業 撮影時間の分だけ時間が掛かる

○UPDATAとLMSにリンク付け 手作業

○配信システムとLMS管理 初期トラブル多発

※赤字は苦労点です

情報アーカイブに至るまでの 各収録方法における業務と苦労点(2/2)

自動化 ↓ 平成21年度	・自動収録配信システムを本格導入、ビデオカメラの映像に加え、講師のPC画面も収録。	○科目・講師などのLMS登録 ○録画予約 休講などの事前連絡がないと誰もいない動画を撮影することに ○各講義コマの音声・映像チェック マイク等の電源の入れ忘れ問題 ○エンコードマシンのチェック PCが固まる現象が発生 ○配信システムとLMS管理
	・HD画質収録システムを導入	○録画タイマー管理 ○LMSのリンク貼り付け作業 手作業 ○収録システムの管理 設定の維持管理

※赤字は苦労点です

ま と め

手探りでコンテンツ作成をしていた初期に比べ、現在は撮影の自動化により掛かる労力・時間が減り、早急なるコンテンツの提供が可能となった。

HD画質の機材を導入したことにより鮮明な動画の提供も可能となったが、学習効果の向上に繋がっているかは未調査である。

現在、旭台キャンパスでは対面講義が多い情報科学研究科を中心に講義収録を展開しているが、ナノマテリアル研究科・知識科学研究科を含む全講義の収録を目標にしている。実験やディスカッションといった講義形態のものを如何に撮影するか課題が残る。